

取組の概要

- インド国内で増大する物流需要に対応し、環境に優しいモーダルシフトの実現にも資するコンテナ貨物鉄道輸送利用促進のため、「共同集荷スキーム」を活用した定時運行輸送を実施し、その実証輸送を通じた効果・課題等を検証する。

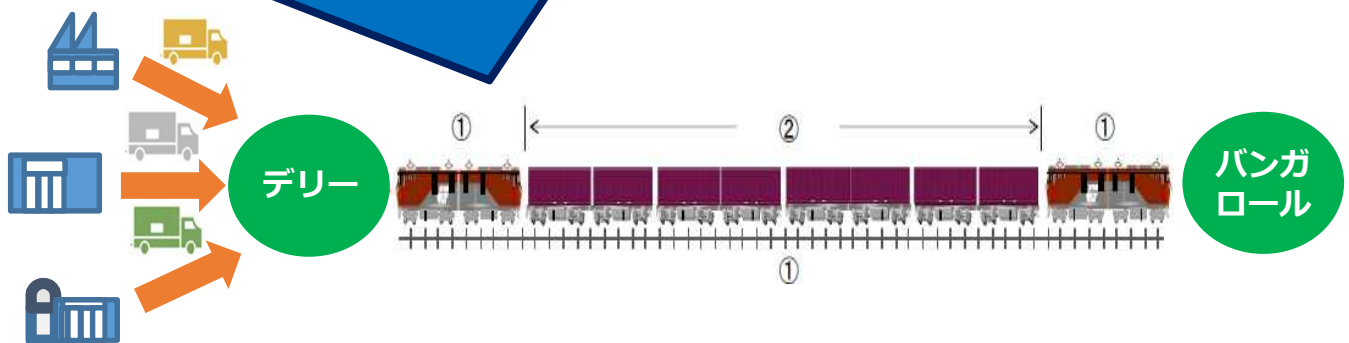
インドにおける共同集荷を活用したコンテナ貨物鉄道輸送利用促進に向けた実証事業のイメージ

インドにおけるコンテナ貨物鉄道輸送の現状

- 原則、ある発着駅区間における1編成40両での運行であり、貨物が40両に満たなければ出発しないため、出発日が未定。
- 旅客鉄道を優先させた運行等により、所要時間が未定。
- 定期・定時輸送の区間、本数は限られている。
※2016年6月15日から2区間、週1本の定時運行が開始。

共同集荷スキームの構築 → 定時運行輸送の実施

- ・日印複数フォワーダーにより、複数荷主の貨物を共同集荷し、1編成分の貨物を集荷。
- ・最適な出発日を設定し、IR(インド鉄道省)、CTO(鉄道コンテナ事業者)と協議のうえ出発&到着日時を決定。
- ・集荷情報を一元管理し、各フォワーダーに貨物位置情報等を提供。



(参考) インド鉄道業界の構造

- インド鉄道省(Indian Railways=IR)が旅客・貨物すべてを管轄
- 鉄道コンテナ輸送の仕組み
 - ①牽引車、車掌車両(後尾)、線路はIRの所有物であり、運行管理はすべてIRが行っている。CTOがIRに対して運行を依頼し、牽引料と線路利用料をIRに支払う。
 - ②コンテナ及び貨車は、CTOが所有。